March, 1982

甲虫ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 56

Pidonia tsukamotoi MIZUNO タカネヒメハナカミキリについて

*斎藤秀生・**鈴木和利

Pidonia tsukamotoi MIZUNO, 1978 タカネヒメハナカミキリは，南アルプス仙丈ヶ岳から登山家で昆虫愛好家でもある塚本珪一氏が採集した1♂1♀に基づいて記載された種である。これらの個体は1957年7月18日に採集されたもので，すでに標本になっており，長い間気づかれずにいた種である。このため採集時の状況などは全く不明であった。

また*Pidonia*類は上翅斑紋その他の外部形態に，地域変異，個体変異，あるいは極端な異常型の多く現れるグループであるため，1♂1♀に基づいて記載された本種は，一部の研究者からはその存在自体が疑問視されていた。

しかしながら今回筆者らは，複数の本種を得たうえ，原記載では図示されなかった雄交尾器その他の形態についても検討することができた。さらに本種の生息環境の一部についても知見を得ることができたため，ここに発表する。

なお，本稿に関し多くのご助言を賜わった水野弘造氏に心から感謝するとともに，図を作製していただいた日比野淳子さんにも心から御礼申し上げる。

採集記録：2♂♂，八丁平（山梨・長野県境），22. vii. 1979, 鈴木和利採集（「図説長野県のカミキリムシ」に掲げられているのは本個体である）；3♂♂，北沢峠（山梨県），31. vii. 1980, 斎藤秀生採集。

形態の記載：本種はからだ全体が比較的細長く，前胸と触角が長い。頭部は黒色で，口器背面は濃茶褐色，腹面は褐色。触角窩から口器にかけて，および喉から口器にかけては濃茶褐色。触角は全体が濃茶褐色で第9節の基部2/3あるいは末端で上翅端を越える。前胸は黒色で（八丁平の1個体はやや褐色を帯びていた），両側中央部は顕著に突出し，背面中央には顕著な縦の線を有する。脚は褐色で，腿節は基部2/3を除き濃茶褐色。上翅斑紋は，上翅縫合線および両側にそれぞれ縦の黒色帯が現れ，翅端も黒ずむが，上翅側縁および小楯板から肩部にかけての黒色斑紋は現れない。腹部の第3～5腹板の中央部分は褐色を帯び，この傾向はより，末端部の腹板に強く現れる。

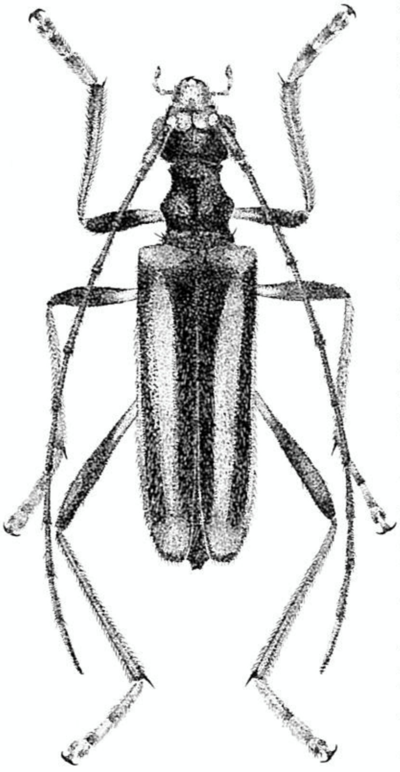


図1　*Pidonia tsukamotoi* MIZUNO
タカネヒメハナカミキリ，♂

交尾器の記載：雄交尾器のmedian lobeは，側面から見ると比較的太く基部約2/3で最も狭められる。先端部は背面から見ると，dorsal plateはなだらかに狭められ，最先端部でさらに先に突出し，ventral plateはさらに長くdorsal plateの先端部に位置する突出部より延びている。Lateral lobesのrinkは，背面から見ると，基部2/3で最も広く，より基部に向って徐々に狭められる。先端のparameresは外縁の基部1/2ではほぼ平行であるが，先端部は弯曲し，中央部は直線的に切れ込む。

腹部第8背板の後縁はやや波うつが全体は丸く，中央部が最も後方へ突き出している（図2・3参照）。

変異について：標本数が少ないため変異を追うことが難かしいが，筆者らが検した個体によれば，以下のようになる。

体長：八丁平の個体 8.0mm，6.0mm。北沢峠の個体 7.4mm，7.2mm，6.4mm。

前胸背：4個体すべてが黒色であったが，八丁平の1個体（6.0mmの個体）がやや褐色を帯びていた。

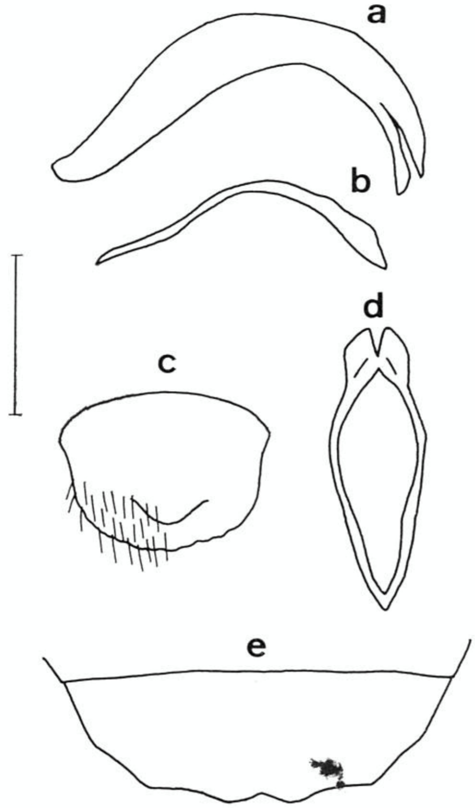


図2　*P. tsukamotoi* の雄交尾器および腹板（スケール：0.5mm）：a. median lobe, b. lateral lobes（a，bは側面），c. 腹部第8背板，d. lateral lobes,（c，bは背面），e. 腹部末端節腹板（第5腹板）（腹面）.

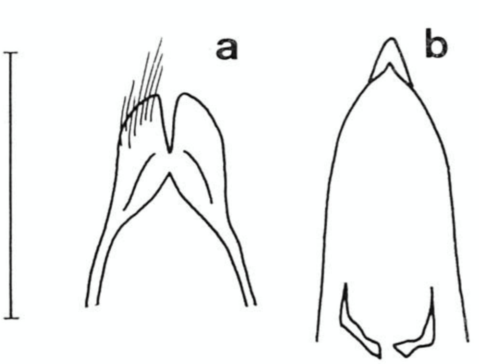


図3　*P. tsukamotoi* の雄交尾器先端部（スケール：0.5mm）：a. lateral lobes, b. median lobe（背面）.

（このことから *P. signata* フイリヒメハナカミキリのように，頻度は極めて低いが，前胸背が赤褐色になる個体が現われるという変異が予想される。）

上翅斑紋：北沢峠の3個体については図4に示した。図1に示した個体では上翅の3本の黒色縦帯は基部で横に連絡するように発達していた。

生態および生息環境の知見：鈴木が採集した2個体は奥秩父の金峰山から小川山に至る尾根を走る登山道沿いで，瑞牆（みずがき）山の南東に位置する八丁平（標高2,050m）で得られた。このうちの1個体は，林内に立てかけたビーティングネットを歩いていたものである。他の1個体は，ダケカンバの衰弱木の幹上を歩いていたものである。また斉藤が得た3個体は北沢峠（標高 2,100m）で得られたもので，いずれもオサムシ用の糖蜜トラップに入っていたものである。トラップは300個設置したが，3個体はおのおの別のトラップに入っていたものの，採集された地点は極めて狭い範囲に集中していた。

八丁平では採集時に *Pidonia* 類の訪花するような花は全く見られなかったが，北沢峠では，採集時にオニシモツケ，サラシナショウマなどが開花しており，*P. oyamae* オヤマヒメハナカミキリ，*P. insuturata* ヨコモンヒメハナカミキリ，*P. testacea* ニセフタオビチビハナカミキリなどの針葉樹林性の種を初め，*P. sylvicola* ミヤマヒメハナカミキリ，*P. ohbayashii* オオバヤシヒメハナカミキリなどの山地性の種，あるいは *P. signata* のような高山性の種など，多数の *Pidonia* 類が訪花していた。それにもかかわらず本種は花上では見られなかった。

筆者の一人鈴木の調べによれば，本種は未発表の個体も含めて，現在9個体が確認されているが，いずれの個体も花上で得られたものではなかった。

このことから，もし本種に訪花行動がないならば，本種の発見が遅れたことや現在までに得られた個体が極めて少ないことなどの理由づけができる。

以上述べたように本種は発見例も少なく，いずれも偶然得られたものであるため，生態的な知見は皆無である。そこで筆者らの得た地域の環境から本種の生息環境を推定すると次のようになる。

八丁平は，シラビソ林の原生林であり，北沢峠は，シラビソ，オオシラビソの原生林である。いずれも林床にはこれらの針葉樹の枯木や朽ち木が倒れており，コケ類や林床植物が豊富である。また北沢峠の糖蜜トラップには多数のゴミムシ類を初め，*Galloisiana nipponensis* ガロアムシ，*G. yuasai* ヒメガロアムシなども得られた。さらにこの地域には山地性のタゴガエルやハコネサンショウウオなども多産し，動物相が豊かなことがうかがえる。

したがって，本種の生息環境としては，シラビソ，オオシラビソの原生林，いわゆる針葉樹林帯の林床植生が複雑な地域で動物相も極めて豊富な環境であると考えられる，地域としては中部山岳地帯（現在のところ仙丈ヶ岳，北沢峠，八丁平が発表されている）の高標高地であろう。

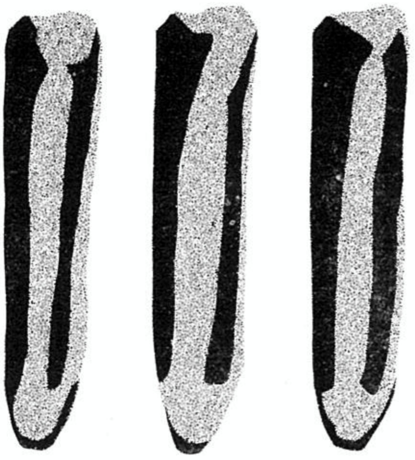


図4 北沢峠産の *P. tsukamotoi* の
上翅斑紋.

P. tsukamotoi は，現在のところ近縁と思われる種が国内に存在せず，独立した特異な種である。また原記載以後に雌個体は確認されていない。さらに現在までの知見によれば，訪花性が認められていない。以上のようなことから，本種は *Pidonia* 類全体から見た場合においても多くの興味深い点を備えている。

したがって今後の雌個体の発見をはじめ，多くの問題解決が望まれる。文字通りたかねヒメハナカミキリである。

参考文献

Mizuno, K., 1978, New species and subspecies of Lepturine genus *Pidonia* Mulsant from Japan (Coleoptera ; Cerambycidae). *Ent. Rev. Japan*, 32 : 39—41.

池田清彦，1980，昆虫の概況　b，カミキリムシ類，山梨県の野生動物：171—186.

清沢晴親ほか，1981，図説長野県のカミキリムシ，日本民俗資料館.

（*千葉県松戸市・**神奈川県藤沢市）

○丹沢のチビシデムシ

筆者はここ2年程，神奈川県東丹沢の札掛（標高約500m）でチビシデムシの採集を行っている。その結果の一部は平野幸彦氏によって，昨年発行された「神奈川県昆虫調査報告書」に記されているが，ここではその後新たに得られ同定をなし得たものについて報告することにしたい。本文に先きだち，日頃から親しく御教示いただいている平野幸彦氏，御多忙中にもかかわらず貴重な文献のコピーを御送り下された日高敏隆，中根猛彦両博士に厚く御礼申しあげる。

1. クリバネチビヒデムシ *Micronemadus pusillimus* (Kraatz)

33頭，11. v. 1981；4頭，30. v. 1981；2頭，14. vi. 1981；1頭，28. vi. 1981；　1頭，30. viii. 1981；1頭，15. ix. 1981；　2頭，11. x. 1981；2頭，17. x. 1981。

2. キョウトコチビシデムシ *Sciodrepoides tsukamotoi* Nakane

1頭，12. iv. 1981；6頭，1. v. 1981；8頭，2. v. 1981；3頭，11. v. 1981；1頭，30. v. 1981；1頭，17. x. 1981。

本種は1956年に京都貴船を原産地として記載された種だが，神奈川県からは既に平野幸彦（1979，神奈川虫報）が記録している。丹沢でも上記の通り多数採集しており少いものではない。

3. ヒダカチビシデムシ *S. hidakai* (Jeannel)

2頭，11. x. 1981；4頭，17. x. 1981。

腐肉トラップで得た。本種は日高敏隆博士の採集品にもとづき1950年に記載されたが，ポーランドのSzymczakowski（1965）によって *Catops* 属から現在の *Sciodrepoides* 属に移された。産地は福島県尾瀬（原産地）の他，長野県常念岳（上村・中根・小山，1964），群馬県・新潟県関越自動車道谷川トンネル付近（柴田，1978）が知られていたが，神奈川県からは初記録。なお本種の全形写真は，中根猛彦博士により1972年の「昆虫と自然」7 (8)，p. 16 に紹介されている。

4. ルイスチビシデムシ *Catops angustitarsis lewisi* Jeannel

1頭，20. iii. 1980；2頭，12. iv. 1981。

前者はタヌキの糞から得られた。

上記のデータには採集地および採集者は省略してあるが，全て筆者が札掛で得たものである。採集方法は腐肉トラップあるいは鹿の解体跡の腐敗骨下の土を篩にかけて採集したものが多い。

（神奈川県綾瀬市，西川正明）

○対馬から未記録のハネカクシ3種（ハネカクシ科分布資料9）

現在まで，対馬からは43種のハネカクシが記録されているが，最近，筆者は川田一之氏より同島から採集されたハネカクシ3種の恵与を受けた。それらはいずれも同島からは未記録であるので，ここに記録して同氏のご好意に報いたい。

なお，採集データはすべて「大星山，5. v. 1979，川田一之採集」である。

1. *Lispinus impressicollis longulus* Sharp 4頭。
2. *Medon lewisius* (Sharp) 1頭。
3. *Nudobius apicipennis* Sharp 1頭。

（東京農大，渡辺泰明）

台湾産 Sericini の産地の追加

石　田　正　明

台湾のビロウドコガネ類Sericiniの中で，野村鎮先生が1974年に新種発表されて以来，追加報告のなされていないと思われる種がいくつか私の手もとにある。ここに追加産地として報告しておく。

標本を御恵与下された露木繁雄・藤田宏の両氏に厚くお礼を申し上げる。

1. *Selaserica antennalis* Nomura, 1974

本種は Koantauchi（南投県）産の1♂を holotype として記載され，同時に Kenting Park（屏東県）産の1♀，Wulai（台北県）産の1♂，Chihpen（台東県）産の1♂が paratype として指定された。

筆者の手もとに次の標本がある。原産地と近い産地であるが，追加産地として報告しておく。

2♂，南投県霧社，1979. v. 4，露木繁雄採集（写真1）。

本属に入るものとして台湾からもう1種 *S. alternata* Nomura が報告されている。これは *antennalis* にくらべて，翅鞘間室は交互にふくらまず，また触角の片状節が柄節の2倍より短かく，さらに体長も 2～3mm 小さい点で区別される。

2. *Nipponoserica nitididorsis* Nomura, 1974

本種は Alishan（嘉義県）産の1♀を holotype として記載された。♂は未知である。

今回検視した標本も♀である。

1♀，花蓮県秀林郷神木，10. v. 1981，藤田宏採集（写真2）。

現在までのところ高地のみから獲られている。珍らしい種かもしれない。

本属に入るものは，台湾では本種のみである。他に東アジアでは，朝鮮～中国北部に3種，中国南部に1種，さらに日本（本州・四国・九州）に7種を産する。日本の7種はその区別は非常にむつかしく，

1

2

また再検討を要する種もあるようである。属の模式種は *Serica similis* Lewis, 1895 で，九州，四国に分布している。

3. *Microserica bisignata* Nomura, 1974

本種は Nanshanchi（南投県）産の1♂を Holotype として記載された。Paratype は Nanshanchi（南投県）産の2♀，Fenchihu（嘉義県）産の1♂1♀が指定されている。

下記の標本を検視した。

1♂・1♀，花蓮県秀林郷神木，10. v. 1981，藤田宏採集（写真3―♂，4―♀）。

4. *Microserica inornata* Nomura, 1974

本種は Lushan（南投県）産の1♂を holotype とし，paratype としては Lushan（南投県）産の3♀，Fenchihu（嘉義県）産の1♂1♀，Nanshanchi（南投県）産の1♂が指定されている。

上記以外の産地より獲られたものとして，下記の3頭を検視した。

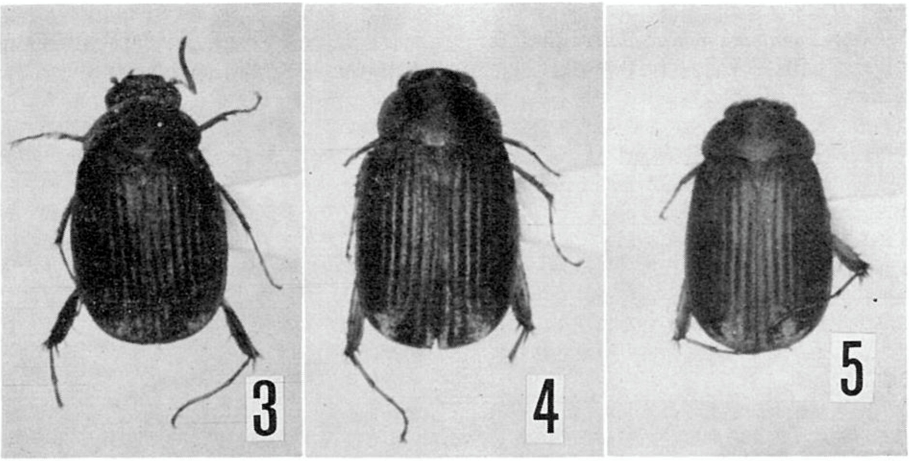
1♂1♀，桃園県四陵，25. v. 1977，藤田宏採集。

1♀，桃園県拉拉山，30. iv. 1979，露木繁雄採集（写真5）。

Microserica 属は台湾から上記2種の他もう1種 *M. nitidipyga* Nomura が記載されている。この3種は次のように区別される。

1 (2)　前胸背に暗色紋をもたない。……*inornata*
2 (1)　前胸背上に一対の暗色紋をもつ。時に全面暗色となる。
3 (4)　頭楯前縁は丸く刻まれる。……*nitidipyga*
4 (3)　頭楯前縁は角ばって刻まれる。…*bisignata*

上記4種の全形図が示されるのは今回がはじめてと思われる。　（東京都杉並区）



○セスジチビハネカクシの町田市での採集例

セスジチビハネカクシ *Micropeplus fulvus japonicus* SHARP は小型ながら特異な形態をもつハネカクシで（独立の科として扱うこともある），本州・四国・九州・対馬に分布する。しかし，小型のためか，生息場所が限定されてしまうためかそれほど普通には採集できず，採れるときの個体数は多いが，なかなかみつからないことが多い。

今までの採集例をみると落葉や腐敗植物質，畠や田圃に積み重ねられたわら束の中などが多いが，水際の濡れたコケの間や小さな滝の壁面に生じたコケの一種の中に多数生息するとの報告もある（成浜善一郎他，1961，藤原岳の昆虫，p. 46）。

今回，町田市で本種の成虫を採集する機会に恵まれたのでここに報告する。

東京都町田市小野路町，14♂♂，24♀♀（2♂♂，3♀♀）5—18. v. 1981，筆者採集，（ ）内は軟弱個体。

採集した38頭はいずれも畑と水田潅漑用の水路の間にある日光の良く当る草地に放置された杉の枯枝2束の中から発見したもので枝には枯葉が多数付着し，地面や草と接触していたためかなりの湿り気を帯びていた。この枯枝の束を白布の上でたたいたが，落下した成虫はしばらくはじっとしているが，少したつと落葉下など何かの物の下にもぐり込もうとして比較的活発に動き始めた。採集した個体の中には体色が黄色っぽく羽化後あまり経過していないと思われる軟弱個体も見られたが，白布上や接触していた地表付近から幼虫や蛹を発見することはできなかった。

本種の食性については不明だが，ヨーロッパの原亜種の幼虫や成虫が，室内の観察だが，菌類の胞子や分生胞子を食したとの記録もある（HINTON et STEPHENS, 1941, *Proc. R. ent. Soc. Lond.* (A) 16 : 31)。日本産の本種も前出のような環境下で菌類などの植物質のもの（？）を食しているものと思われるが，これ等の点は今後の観察に待ちたい。

（東京都町田市，**柴田泰利**）

○北伊豆諸島におけるムネアカチビナカボソタマムシの記録

伊豆諸島からムネアカチビナカボソタマムシ *Nalanda rutilicollis* OBENBERGER が最初に記録されたのは，黒沢（1973）による三宅島であるが，その後に藤田（1975）と秋山（1975）により御蔵島からも報告されている。

筆者は，小宮義璋氏より下記のように北伊豆諸島で採集された本種をご恵与いただいたので報告しておく。

1頭，大島元町，3. viii. 1967；2頭，利島，31. vii. 1967；1頭，新島本村，25. vii. 1964；1頭，新島宮塚山，29. vii. 1964；2頭，新島宮塚山，3. viii. 1965。

これでムネアカチビナカボソタマムシは，伊豆諸島の5つの島から分布が確認されたことになるが，残る式根島，神津島，八丈島にも分布する可能性は大きいものと思われる。

末筆ながら，貴重な標本を快くご恵与下さった小宮氏に謝意を表したい。

（東京都台東区，**藤田　宏**）

○コガネムシ類数種の記録

1. オオダイセマダラコガネ *Blitopertha ohdaiensis* (SAWADA)

1♀，奥多摩川苔山，6. viii. 1976，筆者採集。山頂（1364m）付近の広葉樹低木を叩いて採集。同定は小林裕和氏による。記してお礼申し上げる。

2. ビロウドコガネ *Maladera japonica yaeyamana* NOMURA

2頭，宮古島平良市，9. vii. 1976，筆者採集。

3. リュウキュウビロウドコガネ *M. oshimana* ssp.

44頭，宮古島平良市，9. vii. 1976，筆者採集。

体上面は赤褐色から黒色まで変異がある。石垣島産の個体に似るが，手元に沖縄本島産の標本がなく比較できないので亜種名は保留する。上記2種は水銀灯に飛来した個体を採集。

（東京都中野区，**岩瀬一男**）

○北海道のヤクハナノミの採集例

ヤクハナノミ *Yakuhananomia yakui* (Kôno) は夜久春雄氏により1928年7月28日に札幌で得られた1♂を基に記載された大型のハナノミであるが，採集例はきわめて少ないものらしく，その後の記録としては河原誠・西川協一（1956, *Insect Mag.* (37)：15）による南アルプス遠山川本谷からの1例（♀，原色昆虫大図鑑Ⅱに図示されている個体）しかない。もっとも，過去の採集例はこれだけではなく，河野広道博士は日本動物分類の花蚤科（1936）の本種の解説中に♀の特徴も記しているから，少なくとももう1♀が北海道から得られていることになるし，中根猛彦博士も北海道産の標本を所蔵されておられるとの由である。

しかし，近年の採集例をまったく聞かないほど稀な種類であるし，採集者の御厚意に報いるためにも，私の手許にある北海道からの1例をここに記しておくことにする。

1♀，北海道網走支庁生田原，25. vii. 1980，下村徹採集。

スイーピングで偶然に得られたという。いつもながら貴重な標本を恵与いただいている下村徹氏，ならびに御教示を願った中根猛彦博士に心からお礼申しあげる。　（横浜市金沢区，**高桑正敏**）

○本州のアヤオビハナノミの記録

アヤオビハナノミ *Glipa ohgushii* (Chûjô) は日本特産の大型のハナノミで，原産地の九州の他，対馬と本州に分布するが，対馬を除けば採集例はきわめて少ないようである。

本州に本種が分布することは，中根猛彦（1957，新昆虫，10(5)：53）により『私は近畿の標本を見たことがある』と記されたのが最初で，これに基いてであろうか，野村鎮（1963，原色昆虫大図鑑，**2**：247）は新記録の表示なしに本種の分布地として本州を加えている。また，田添京二（1973，福島生物，(16)：2, pl., no. 4）が本種として福島県下から記録した個体は，私（1979，甲虫ニュース，(44)：7）と田添（1980，福島生物，(23)：2）が書き留めておいたように，前述の野村（1963）が図示した標本の誤りに基くオオシマオビハナノミ *Glipa oshimana* Nomura のことである。

こうしてみると，私の知っている限りでは，アヤオビハナノミの本州からの正式な記録はいまだないことになってしまう。そのため，国立科学博物館所蔵の故野村先生のコレクション中にある静岡県産の個体と，私の手許にある和歌山県産の個体とをここに記録しておきたい。

1♀，静岡県寸又峡，22. vi—6. vii. 1964，野村鎮採集；1♂，和歌山県那智滝付近，4. viii, 1979，黒沢良彦採集。

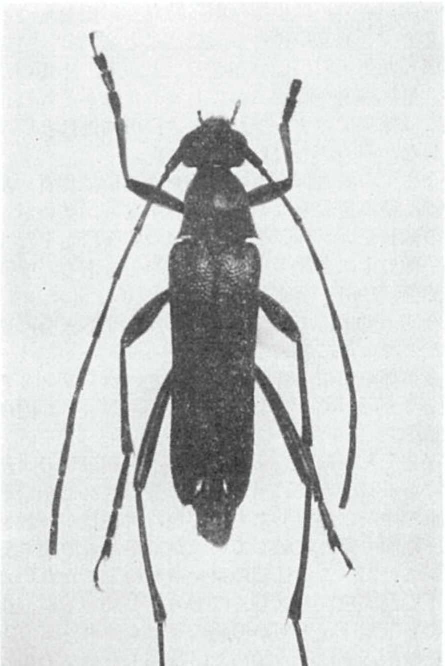
もうだいぶ前のこと，静岡県産の標本を見て仰天した私に，嬉しそうなお顔をされた野村先生がなつかしく思い出される。先生はこの個体を採集されて即座に原色昆虫大図鑑での誤りに気付かれ，1966年にオオシマオビハナノミの新種記載をされた。

末尾ながら，和歌山県産の標本を恵与くださるとともに，野村コレクション中の上記標本の発表を快諾された国立科学博物館の黒沢良彦博士に心からお礼を申しあげたい。　（横浜市金沢区，**高桑正敏**）

○クロツヤムネアカハナカミキリの記録

クロツヤムネアカハナカミキリ *Leptura* (*Pedostrangalia*) *muneaka* (Mitono et Tamanuki, 1939) は，台湾省北部の拉拉山で採集された2♂の標本に基づき記載されたが，その後本種が採集されたという記録はないようである。筆者等は数年前，余清金氏の御好意で台湾北部，桃園県巴陵産の標本を検することができたので報告する。

1♂，台湾省桃園県復興郷巴陵，12—13. vi. 1978，余清金採集。



なお，本種の属については，*Paranaspia* 属に類似するが，体型がより細く，肢や触角も細いこと，触角の構造，後跗節第1節と2節，3節の和の長さの比，等に違いが認められた。今後属について再検討が必要であろう。

（横浜市磯子区，**秋山秀雄**・東京都品川区，**下村徹**）

○スネケブカヒロコバネカミキリ台湾に産す

スネケブカヒロコバネカミキリ *Macromolorchus hirsuta* (MITONO et NISHIMURA) は九州福岡産の♀により記載され，その後わが国の本州（山梨県以西），四国，九州，隠岐，対馬から産地が知られるが，その分布は局所的な傾向が強い。最近筆者らは，下記の様に台湾産の本種を検することが出来たので，ここに同島初記録として記録しておきたい。

2♂♂1♀，台湾省高雄県六亀郷南峰山，24. v. 1981，川田一之採集。

これらは標高1000m付近の尾根筋に咲くアカメガシワの花上から，午前11時頃，他の多くの甲虫と共に採集したものである。

この台湾産の個体は，日本産と比較して，明らかに体色が黒いこと，とりわけ♂の胸部腹面は一様に黒色を呈する点（日本産ではかなり黒化した個体でも，中胸側板だけは暗赤褐色），頭部は比較的前方に突き出る点から区別できる。しかしながら，比較のために検した日本産の標本は，本州，対馬産のわずか21♂♂8♀♀に過ぎないため，あるいは上記の差異も日本産の個体変異の範ちゅうに含まれるものかも知れない。

末尾ではあるが，比較標本を貸与された藤田宏，分島徹人，秋山秀雄の諸氏に感謝申し上げる。

（東京都中野区，**川田一之**・同板橋区，**新里達也**）

○エンマムシモドキの食性観察例

1981年6月24日，山梨県大菩薩での採集調査の折，沼の窪付近の路傍にあったタラノキのかなり腐朽の進んだ立枯れに，エンマムシモドキ *Syntelia histeroides* LEWIS が5～6頭集まっているところを目撃した。そのうちの1頭を無造作に手にしてみると，その個体は双翅目の1種の幼虫を大腮で銜え，半ば消化しかけているところであった。さらに立枯れに注意してみると，水を含んで樹皮が浮いている様な部分に，10mm大に成長した同様の幼虫が見られ，他の個体もその付近に静止していることに気づいた。これらの状況から判断すると，立枯れのエンマムシモドキはこの幼虫を摂食する目的で集まってきたものとも考えられる。ちなみに，このタラノキには樹液も認められず，他の本種を誘引する様な要因は見当らなかった。最近，直海（北九州の昆虫，1982）がゴミムシダマシの幼虫を捕える本種の行動を観察しているが，今回の観察も合わせると，案外本種は肉食性の傾向が強いのかも知れない。

（板橋区，**新里達也**）

○ミゾムネチビサビキコリの採集記録

ミゾムネチビサビキコリ *Adelocera* (*Brachylacon*) *brunnea* (LEWIS, 1894) は，J. LEWIS が1882年に相模大山を訪ずれた際採集した性別不明の1個体の標本に基づいて LEWIS 自身が記載した種類である。その後，本州・四国・九州・奄美大島などから数例の報告があるが，かなり珍らしい種のようである。筆者は，木村欣二氏採集の神奈川県のコメツキムシの中から本種を見い出すことが出来たので，ここに報告しておきたい。

1頭，神奈川県大磯高麗山，28. vii. 1974，木村欣二採集。

なお，日本の *Brachylacon* 亜属は，最近 ÔHIRA (1978) によって3新種が記載追加され，また，KISHII (1979) によって今まで分布に疑のもたれていた，ヒメミゾムネチビサビキコリ *A.* (*B.*) *tumens* (CANDÈZE, 1873) の分布の再確認が，石垣島及び西表島からされたので，日本には現在6種1亜種が産することが明らかになった。

終りに，本種を採集し御提供下さった木村欣二氏に深くお礼申し上げる。（東京農大，**鈴木　亙**）

○秋田県のクワガタムシ

筆者は，秋田県内において次のようなクワガタムシを採集しているので報告する。

1. *Platycerus delicatulus* LEWIS ルリクワガタ

1♀，北秋田郡森吉山1000m（朽木中），4. xi. 1973，佐藤採集；1♂，北秋田郡大覚野峠(朽木上)，3. vi. 1981，藤岡採集。

2. *Prismognathus angularis* WATERHOUSE オニクワガタ

1♂，雄勝郡栗駒山 600m（朽木中），21. xi. 1980，佐藤採集；1♂，由利郡鳥海山八島口 800m（側溝），16. ix. 1980，藤岡採集；1♂，仙北郡駒ヶ岳 800m（側溝），26. viii. 1980，藤岡採集；2♂♂，北秋田郡森吉山 600m（朽木中），14. viii. 1980，佐藤採集；1♂，鹿角市八幡平 800m（立枯），6. viii. 1981，佐藤採集；1♀，河辺郡岩見山内（ライト），9. viii. 1981，藤岡採集。山間部には比較的多い種である。

3. *Nipponodorcus montivagus* LEWIS ヒメオオクワガタ

1♂，北秋田郡森吉山1000m（朽木中），4. xi. 1973，佐藤採集；3♀♀，仙北郡小和瀬（ライト），2. vii. 1974，藤岡採集；1♂，仙北郡玉川（側溝），2. viii. 1980，藤岡採集；1♂1♀，雄勝郡栗駒秣岳（側溝），7. ix. 1980，加納採集。山間部では少なくない。

4. *Dorcus curvidens hopei* SAUNDERS オオクワガタ

2♂♂4♀♀，仙北郡小和瀬（ライト），16. viii. 1974，藤岡採集；1♀，仙北郡玉川（ライト），4. viii. 1981，藤岡採集。県内には本種成虫の集まるクヌギ・アベマキが自生していないのでミズナラかブナに来るのではないかと考えている。

5. *Ceruchus lignarius* LEWIS ツヤハダクワガタ

1♂，雄勝郡栗駒山600m（側溝），21. ix. 1980. 佐藤採集；1♂，河辺郡大牧森（朽木中），1. xi. 1981，佐藤採集。

6. *Aesalus asiaticus* LEWIS マダラクワガタ

1♂，雄勝郡秋の宮（枯枝上），21. vi. 1981，加納採集。

これら6種以外には，ミヤマクワガタ，ノコギリ

クワガタ，アカアシクワガタ，コクワガタ，スジクワガタの5種が各地より普通に採集される。また，ミヤマクワガタとノコギリクワガタはトチノキの芽に集まる習性があり興味深い。

（秋田県秋田市，**藤岡昌介・佐藤福男**；　秋田県本荘市，**加納彦一**）

○ミヤタケシギゾウムシ本州の記録

ミヤタケシギゾウムシ *Curculio miyatakei* MORIMOTO は，宮武睦夫氏が1957年6月3日に徳島県剣山で採集した1♂に基づいて MORIMOTO (1960) によって記載された種であるが，その後の採集記録は全くないので，筆者の所有している本州産の標本を紹介する。

1頭，奈良県伯母子岳，28. v. 1975，平松広吉採集。

1頭，奈良県大台ヶ原，28. v. 1978，S. TSUCHIYA 採集。

文末ではあるが，本種を同定して頂いた森本桂博士に感謝申し上げる。（和歌山県有田郡，**的場　績**）

○ヒメテントウノミハムシの加害植物

1980年7月27日に東京都世田谷区岡本の自宅の庭の隅にあるネズミモチの葉裏に数頭のヒメテントウノミハムシ *Argopistes tsekooni* CHEN が付着しているのを発見した。しかし，その折にはその中の1頭を採集しただけで，他は放置しておいた。ところが，翌年1981年7月10日，出勤しようとして玄関先のライラックを見上げると，葉裏に本種が点々と付着していて，かなりの食痕までである。あわてて次の日曜日（12日）に調べてみると70余頭を数えることができ，その側のキンモクセイにも新葉の一部が赤茶色に変色するほどにかなりの被害があった。本種はイボタを食べることが知られており，同じモクセイ科の植物を食べることは当然ではあるが，全く外見の異るこれら3種の植物をよくぞ同じモクセイ科と見分けたものとその選択力に感心させられたので記しておく。ちなみに，1980年に加害したネズミモチと翌年のライラックとの間の距離は約 10m で，1981年には前年のネズミモチには全く被害はなかった。　（国立科学博物館，**黒沢良彦**）

○マークオサムシの分布北限

国立科学博物館に所蔵されている河野広道博士のコレクションの中に「シリヤ，7. viii. 1927」というラベルの付いたマークオサムシ *Apotomopterus* (*Limnocarabus*) *clathratus maacki* MORAWITZ の標本1♀がある。「シリヤ」は恐らく青森県下北半島の尻屋岬を指しているものと思われるが，これが正しいとすると，本州における本種の分布の北限ではないかと考えられる。不思議なことに北海道からは本種のはっきりした記録はないので，目下の所この尻屋岬が日本における本種の分布北限となるであろう。　（国立科学博物館，**黒沢良彦**）

○九州のヤマムツボシタマムシ

ヤマムツボシタマムシ *Chrysobothris igai* Y. KUROSAWA, 1948 は四国剣山産の1♀に基づき記載した種類で，その後九州にも産することが判り，そのうえ本州中部の山地に広く分布する *C. nikkoensis* Y. KUROSAWA，1961 も同一種と考えられるようになったので，本州中部，四国，九州の山地に分布することが確かめられた。しかし，中国地方に産しないのは頷づけるとしても，近畿地方特に紀伊半島に本種の記録がないのは不思議である。また，九州では中部の山岳地方に限られ，他からは知られていない。個体数も少ないらしく，私の検した標本は次の4頭だけである。

1♀，宮崎県東臼杵郡椎葉村白岩山（1400m），5. viii. 1970，山脇好之採集；2♀♀，大分県祖母山，28. vii. 1962，C. YAMANO 採集；1♀，熊本県八代郡泉村九連子（クレコ），11. vii. 1971，H. ARAMAKI 採集。

標本を検する機会を与えて下さった，大塚勲，芝田太一，野村美之ら諸氏に感謝する。

（国立科学博物館，**黒沢良彦**）

連　絡・報　告

56号をお手許にお届け致します。これで昨年度分の会誌が全部完了し，次号から今年度分となります。編集者の都合で会誌の発行が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。幸にも岡島秀治，笠原須磨生両氏が困難な編集を引き受けて下さいましたので，今後は順調に発行できるようになると思います。皆様の温い御協力御援助を期待致しますと共に短報をどしどしお寄せ下さる様お願い致します。

（黒沢良彦記）

甲虫談話会
会費（一ヵ年）2000円，次号は5月31日発行予定。
投稿〆切は4月30日。
発行人　黒沢良彦
発行所　甲虫談話会　東京都台東区上野公園
国立科学博物館動物研究部内
電話（364）2311，振替東京 0—60664

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ
日本ではじめてできた有頭昆虫針!!
1，2，3，4，5号（各号100本180円）
なお，有頭針00，0号もできました。その他，採集，標本整理用各種器具も取揃えてあります。
〒150　東京都渋谷区渋谷1丁目7—6
電　話　(03) 409—6401（ムシはーばん）
振　替　東京 21129
志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具
ドイツ型標本箱　木製大　￥5,000，桐合板製インロー型標本箱中 ￥1,500，送料一箱につき都内及第一地帯：3個以下￥1,300，4個以上￥850（以下同様），第2地帯￥1,500，￥950，第3地帯￥1,700，￥1,050，其他，各種器具，針などを製作販売してます。カタログを御請求下さい。（￥160）
タ ツ ミ 製 作 所
〒113　東京都文京区湯島 2-212-25
電 話 (03) 811—4547，振替 6—113479